

# 春の法要・暮らしの講演



東京は新宿で5000人が暮らす団地の一角に「暮らしの保健室」をオープンさせて13年目になる秋山正子さんをお招きしました。この暮らしの保健室は、平日の午前9時～5時まで、予約なしで訪問が可能であり、無料で医療スタッフが病気のことや生活の悩みを聞いて下さる施設のことです。病院で生まれ病院や施設で亡くなるしかないと思われても、この活動を通じて家族と近所などの地域と、プロのサポートがあれば、納得した最期を迎えるとアドバイスして下さいました。



その「暮らしの保健室」の機能を、がんに特化したのが右の写真の「マギーズ東京」です。8年目になるそうです。元気なうちから知っておく在宅ケアにより、どなたも孤立することなく、人生を自分らしく全うできる勇気が湧いて来る気がしました。

去る3月31日(日)の午後1時～徳成寺において春の法要が勤まりました。当日は、最高気温が20度を超すポカポカ陽気で、隣の公園の桜も咲き始めたそんな1日でした。おかげ様で、多くの皆さんにお参り頂けて、ありがとうございました。また事前に懇意を運んで下さった皆さんにも、厚く御礼申し上げます。春の法要のテーマは、暮らしの講演と題してお話して頂きました。私なりに人の生死にを垣間見せて頂いて、どなたも自分らしく最期まで過ごせればいいなと思い、この暮らしの講演を思い立ちまし



左の写真は、「暮らしの保健室」が、日本テレビ系のニュース・エブリィで取り上げられた時の映像を皆さんに視聴して頂きました。身体の不調などで困っているお年寄りが、スタッフの「でしゃばらないおせっかい」により、自分の悩みを整理して、徐々に元気を取り戻し、前向きに生きていく様子が記録されていました。

